



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

ないものを欲しがらず

あるものを喜ばせてもらおう

(山口・河村ふでさん)

少し前まで「暑い、暑い」と汗を拭いていましたが、一気に秋が進んで肌寒い季節になりました。後二か月で正月です。どんな一年の過ぎ去るのが速くなるように感じますね。

年齢を重ねると、身体のおちこちが悪くなってきました。眼科、歯科、内科、整形外科などなど、医院の診察券がどんどん増えます。同じような歳格好のものが集まると、医者の良いしあやら、「どこが悪い」「どこが悪い」と愚痴話のオンパレード……。

ある施設に入ってきた老女、家族に皆先立たれ、身体もだんだん衰えてあちこち不具合が目立ってきて、毎日小さざ込んでいたそうです。

ところが、その施設を訪問する僧侶の方が「失われた機能を嘆かず、残された機能を活かそう」という話をし、標語を書いて施設内に張り出しました。その話を聞いた老女は、はっとしてわが身を振り返り、「こっちは手は不自由だけど、こっちの手(右手)はまだ動いて下さる。有難いこっちゃ、……と合



せにくい両手を合わせて、「なまんだぶなまんだぶ」と声高らかにお念仏を称えられたそうです。

その様子を遠巻きに眺めた施設の職員さんたちも静かに両手を合わせて頭を垂れたとのことでした。

先の標語が出来上がる伏線があります。山口県萩市の河村とし子さん(萩女子短大学長)というお方が、義母・ふでさんから学んだことを講演でお話になりました。ふでさんは何人かの息子さんが戦死し、たった一人残った息子さんと結婚したのがとし子さんで、「おばあちゃんは何人もの子供を亡くしているも、愚痴もこぼさず、寂しくないのだろうか?」との疑問をふでさんに尋ねました。すると、ふでさん曰く「ないものを欲しがらんで、あるものを喜ばせてもらおうよ」と「ここにあなたがおつくれるよ」とお念仏がこぼれました。

としさんは東京から嫁いでこられたインテリ女性で、最初は別の宗教を信仰し、念仏など称えたことのない女

性でしたが、おばあちゃんの感化でいつしか、共に聴聞する人になりました。先の僧侶も、とし子先生の講演を聞いた一人だったのです。

失った過去を嘆き、「なんで私だけが」と自分を恨む暗闇の中に、仏さまの智慧の光が届いて「残されてあるお蔭さま」に気づいたのです。

親鸞聖人の流れをくむご門徒さんたちは、煩惱を捨てられずも、み仏さまのお呼び声(南無阿弥陀仏)に目覚め、苦悩をご縁に尊い境地を開かれ、生き抜かれました。報恩講の季節、あなたも精々お聴聞のご縁にお参り下さい。



★ 写真アラカルト ★



☆行事ご案内☆

◇報恩講 講師:守 快信先生(滋賀)

11月2日午後1時半、お非時は持ち帰り弁当
 申込締切 10月25日・複数申し込み可、電話受付 OK

3日午前10時・午後1時(三全仏婦)

昼食弁当用意:世話方・行事・遠方参詣者様どうぞ

◇秋勤進11月23日午前8時行事世話方、住職

が手分けして巡回。ご協力よろしく申し上げます

◇お内仏報恩講 12月3日(土)午前10時半

庫裏仏間、お弁当用意、秋勤進の時、希望伺います

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」検索一年分の寺報閲覧。毎日更新『住職と坊守のつれづれ日記』が好評開設14年で39万1千、お悩み相談・コメント歓迎。

◇一縁会テレホン法話 059・354・1454 電話

◇新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談を

◇法事場所でお困りの方寺にご相談を。本堂使用可

◇令和5年5月21日(日);本山参拝募集
 親鸞聖人ご誕生 850年法要、会費7千円、11月末締切

坊守スケッチ

お一人様でも家で死ねますか？

NHKBSで『お一人様でも家で死ねますか？』というドキュメンタリー番組が放映されました。私も関心があったので録画して見ました。誰しも、住み慣れた自分の家で最期を迎えたいと思うのは当然です。しかし近年それは叶わぬ夢で、大半が病院または施設で亡くなります。コロナ禍になつてからは、遺体に一度も面会ができずに白い袋に入れられたまま火葬した例もありました。介護保険が始まってからは、高齢者は介護認定を受けて、家族がいても老人施設に入居する人が大半です。入居者達が「私達がここにいるのは嫁孝行なのよ」と異口同音にいう言葉を聞いて切なくなりました。

本心は「自分の家に居たいけれども、年寄りや厄介者だから居られない」という諦めが込められていました。

ではお一人様の場合は、自宅で最期を迎えられるかと言うと、簡単でもなさそうです。特に体が弱っている老人や末期がん患者の場合は、殆どが病院で最期を迎えます。

しかしここで本人の希望を叶えさせたいと立ち上がったのが、岐阜県の開業医小笠原文雄医師(73)です。小笠原先生は、看護師・ヘルパー等で構成する医療チームを組んで、患者と対話を重ね、患者に寄り添う医療を実



践されました。今まで120人以上のお一人様を自宅で最期の看取りをされました。こんなお医者様が我が家の近くにもいて欲しいと思います。

小笠原先生の看取りの原点は、先生の生家にあります。実家は岐阜県の真宗大谷派の寺院。医師と住職も兼ねてみえます。医学生の時、姉(20)が自分で歩いて病院の表門から入院したのに、一週間後に遺体となって病院の裏門から帰って来た事実が衝撃を受けました。それ以来、最期は自宅で迎える医療を目指したそうです。

私達も死はずっと先の事、他人事と考えずに、いつ自分の番が来ても不思議ではないと覚悟を決めて、残された時間に何を大事に生きたいかを考えるきっかけにしたいと思います。

俳壇・歌壇

秋晴れや一直線に耕運機

釋妙水

新米や掃除のあとの握り飯

釋妙水

挨拶や笑顔と言葉秋の朝

釋樂邦

咲いたよと風に託した金木せい

釋樂邦

苜りたての草の匂いや秋高し

釋樂邦

弾け散る音を頼りに栗拾い

釋住安

枯スキ箒となりて届けられ

釋住安

秋祭り三年ぶりの獅子の顔

釋住安

肩車月をつかむと手を伸ばし

釋瑞華

雲間より昇りし朝日南無出でて

釋瑞華

長月の幾歳過ぎぬ生まれ月

釋瑞華

続く↓

若坊守の育児日記No.94

九月の善正寺「初句会ライブ」にお越し頂いた皆様、有難うございました。夏休みに尊敬する夏井いつき先生の句会ライブに参加した小5の長男が、自分もやりたい」と言い出すとは青天の霹靂でした。

テレビ番組「プレバト」で人気の夏井いつき先生は、元は地元・松山の中学校の国語科教師でした。そこで、ある生徒が暴力と暴言を繰り返すのは、自分の気持ちを表す言葉の素養を持っていないからだと言いました。

「言葉でしか人と人はつながれない」と、言葉の力の重大さを知り、それが現在の俳人としての活動の原点になっているようです。

以前、長男が「俳句って理科や社会のことも知ることが出来る！」と意気揚々と書いていました。動植物や地名など大人でも知らない情報が「五・七・五」には詰まっています。また、夏井先生曰く「季節や光景に自分の思いを代弁してもらうことで、自分の環境や感情を客観視できる」。ネット上で傷つけあう言葉ではなく、自分の感情を乗せた俳句が誰かの共感を呼び、心の交感になったら嬉しいですね。



カンパありがとう

水谷勝子様、山中ツヤ子様他匿名様より。感謝

お知らせ

◇報恩講お非時(2日午前)は今年も持ち帰り弁当です。申し込み締め切り10月25日まで。複数の申し込み可。電話でもOKです。

続・俳壇・歌壇

名月や戦火の国の民いかに

釋惠正

寺庭にいきなり咲くや曼殊沙華

釋惠正

穂の稔り三重の句会や賑やかに

釋惠正

秋彼岸永代供養の句会かな

釋惠正

孫子の智慧に慈悲を与えん

釋秀龍

錦秋の宿や激しき木曾の川

釋秀龍

出来立てのコピーの熱さ秋涼し

釋秀龍

パトカーのサイレン秋の雨の夜

釋清風

飛行機雲よこ一線に秋の風

釋清風

境界を超える虫の音帰途独り

釋清風

雲海に浮かぶ峰々蒼き空

釋清風

募集親鸞聖人誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要・団体参拝

令和五年五月二十一日(日)(御満座)

会費・七千円(懇志、バス代、昼食代含む)15名、11月末日締切

募集三重組連続研修会(来年一月開始)

11月末日までに参加希望者お申込み下さい。複数参加歓迎、申込を。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」347号をお届けします。◇来年は3月13日に七年ぶりの十三日講、五月二十一日にご本山の大法要最終日参拝予定。お申込みを!

稀食えば鐘が鳴るなり法隆寺は正岡子規の有名な俳句です。正岡子規と夏目漱石は同年齢で無二の親友でした。子規がこの句を作ったのは、新聞に漱石の「鐘撞けば銀杏散るなり建長寺」という句を見つけたからだと思います。ところで先月、小五の孫が主宰する初めての句会ライブが本堂で開催されました。孫は夏休みには夏井いつき先生の俳句講習会を受けて、すっかり魅了され、「ウチでもやりたい」と言い出しました。小学生のお遊びにどれだけの人が同調して下さるか不安でした。でも山本五十六連合艦隊司令長官の「やてみせ、言って聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば人は動かじ」という言葉に思い出しました。昨今の閉塞感漂うお寺の中で、若い芽を育てたいという気持が動きまわりました。一ヶ月半、孫は夏井先生の教えを自分なりに消化して用意万端。身ぶり手ぶりを交えて堂々としたプレゼンテーションでした。「俳句は認知症予防になり、健康寿命を延ばします。五七五の中に季語と状況を詠めば立派な俳句です」。初心者の人からは「これならば私にもできる。散歩しながら一日一句作ってみよう」という嬉しい声を頂きました。孫のおかげで、お寺の中に、新しい風が吹き込んだような感動でした。さて11月2日3日と真宗門徒して一番大事な伝統的行事の「報恩講」もお勤めします。講師は守快信先生。皆様のご参詣を心よりお待ち申し上げます。

合掌

令和四年十一月

善正寺坊守拝